

弥生三月 出会いの季節

春爛漫を間近に、いよいよ弥生三月に入りました。8日は3年生の卒業式、22日は2・1年生の修了式と学年の総まとめの季節になります。そして、この季節は同時に新しい出発・出会いの季節でもあります。「会うは別れの始まり」という言葉がありますが、私＝校長はそうは思いません。それは、言いかえれば「別れは出会いの始まり」ということだからです。特に3年生は「卒業して菅野中ともお別れ…」「せっかくの友達とも離れてしまう…」。そんな寂しい、感傷的な思いもあるでしょう。でも、本当の別れではありません。これからこの先に、どんな素晴らしい出会いがあるかもしれません、いや必ずあるはずです。

私は卒業式をゴールではなく、通過点またはスタートだと考えています。小中9年間の義務教育を終え、まさに巣立っていく3年生は筋野・上菅・菅生小から菅野中という地元の「揺り籠」から離れて、いわゆる世の中の「荒浪」の中に出ていきます。進学であれ、就職であれ、これまでのように、よく見知っている友だちや先生、近所の優しい「おっちゃん・おばちゃん」ばかりではない人々に囲まれます。戸惑いや辛さ・怖さも経験するでしょう。もしかしたら理解しにくい、気の合わない人とも出会うかもしれません。それが世間、社会というものです。外の世界に一步踏み出すことで、皆さんは様々な経験をしていきます。経験していく中で成長・成熟していきます。卒業は、そのきっかけのひとつです。この後、どのような人生を送っていくのかを左右するような大きな節目、通過点、そしてスタートなのです。

そして同時に、卒業式は中学校最大の行事であり、義務教育における最高の場面です。儀式の持つ荘厳な雰囲気。目に見えない何者かに見つめられているような張りつめた空気。少しの油断さえ許されないような緊張感。そんな中で「先生と生徒」「保護者と子供」「地域の先輩と後輩」そんな互いを認める心が通い合う、温かな関係性が醸成されていきます。一昨年まではコロナ禍による制限された形での式でしたが、今年は卒業生とその保護者の皆さん、在校生代表としての2年生、先生たちとPTA・地域代表の方々の出席による原点に戻った卒業式となります。しかし、今年もこれまでと同じように、生徒の皆さんは義務教育を終えた一つの節目を通り過ぎることに違いはありません。卒業式を通して、皆さんは一回りも二回りも大きく成長していくことでしょう。

また、卒業式は決して他から与えられるものではありません。すべての参加者の一人ひとりの思いや願い、所作・立居振舞が式を創ります。「心がある・規律がある・感動がある」そんな卒業式を創り上げたい。3年生も、保護者も、先生たちも、みんなが、そう考えています。もう一度繰り返します。卒業式はゴールではなく、スタートです。そして3年間の中学校生活の総まとめの機会です。後に続く2・1年生も3年生の後ろ姿を見て、必ず最高の学年になっていく。史上最高の学年から史上最高の学校へ…。菅野中学校が生徒全員の輝きによって、明るく光り輝く学校になっていく。そんな卒業式を期待しています。

心を一つに創り上げよう！

心のふるさと われらが母校！

…私たちが生まれ、育ち、住まい、暮らし、学ぶ

筋野・上菅・菅生小校区を愛する気持ち、

そして、菅野中学校を愛する気持ちをもとう！